

二十歳の誓い

私の母は女手ひとつで、これまで一生懸命働き私を育ててくれました。何不自由なく、いつだって自分がしたいことはそちのけで、私がしたいことをさせてくれていました。

小学5年生の時にソフトテニスというスポーツに出会い、中学に入ってからもすぐに部活動を初め、日々部活動に打ち込んでいました。母は私に部活動だけでなく勉強も頑張ってもらいたいという願いがあり、中学生になったと同時に塾に通い始めました。

勉強が苦手な私に文武両道は難しく、塾に通うのが疎かになりはじめた中学2年生の夏のことです。ソフトテニスで高校に進学したい、そんな一心で部活動に励んでいましたが、勉強も部活も頑張ってもらいたいと願う母と意見の食い違いが出始めたのです。そして夏期講習が始まった頃、勝手に塾に電話を入れ休み始めるようになりました。そんなある日の朝、母に夏期講習に全く行っていないことがバレたのです。

「いい加減にしなさい。塾の授業料にどれほど大きなお金が動いているの。」と淡々とした口調で言葉をぶつけられました。部活動が忙しく母とろくに会話もせずでした。しかしこれを機に初めて母と向き合うことを決め、本当にしたいことは何か、気持ちをぶつけることにしたのです。思っていることを全てぶつけたことで、母は部活動を応援してくれ、ソフトテニスで高校に進学することが出来ました。部活動を通じて、人に支えられていることを強く実感し、人は一人では生きていけないのだと感じました。

そんなときテレビで災害の現場に駆け付け、人を助けている自衛官の姿を見た瞬間、「私も自衛官になりたい！人の役に立ち、人を支えたい！」と思うようになり、これが「第一の目標」となりました。

そして後半の人生には、「第二の目標」があります。それは母とキッチンカーをすることです。私の何気ない一言で「いいよ」と言ってくれた母と、二人で将来キッチンカーをすることは、大切な約束になりました。私が一番好きな食べ物は母の作るカレーです。このカレーをキッチンカーで売ることが私の将来の夢です。この夢をいつか必ず叶えたいと思っています。

まず社会への第一歩は自衛官となって、人を支え、その後は母と私の二人三脚で自分の好きな人生を生きていきたいと思っています。二つの夢を必ず叶えることを、「二十歳の誓い」とさせて頂きます。

令和5年1月9日 新成人代表 五島 聖愛